



Doctor's Good Will - 患者さんを診える電子カルテ

レセコン機能と電子カルテ機能を完全に融合／一体化した外来診療所専用の電子カルテを4Dをベースに実現しました。

アトリエモモ社は15年前に電子カルテソフト、Doctor's Good Willを開発し、その機能を充実させてきました。カルテ2号用紙の「WYSIWYG (What You See Is What You Get)」を開発コンセプトに、先進的なPOMR「問題志向型診察記録」(Problem Oriented Medical Record)支援プログラムにより、SOAP記載時に社会保険診療報酬点数表からの自動登録が可能になりました。

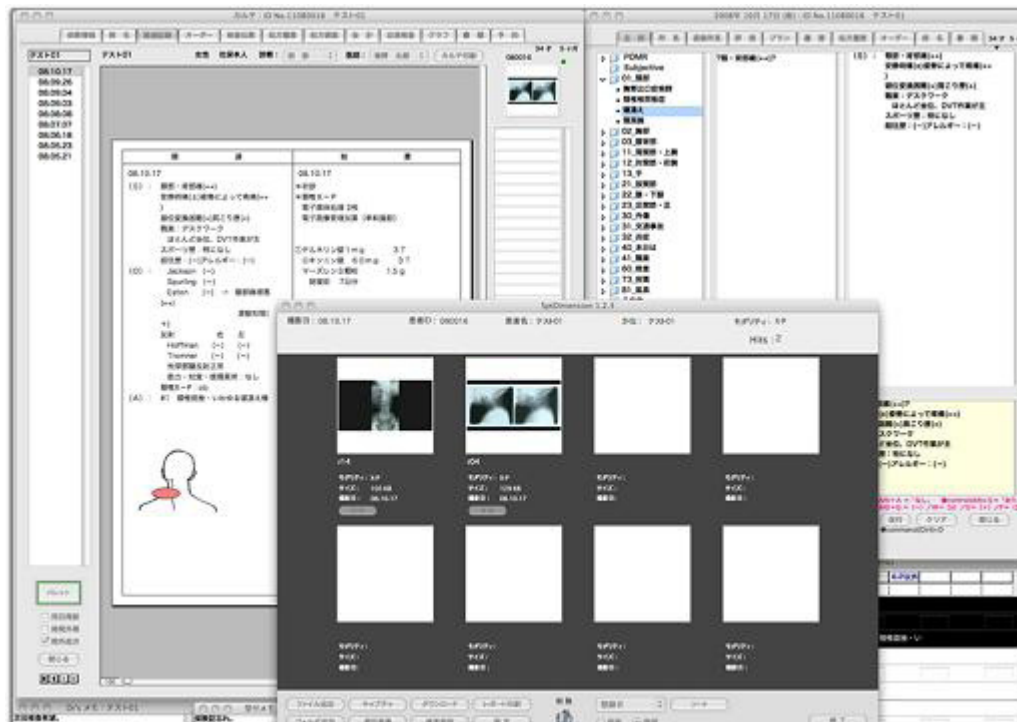
「私と4Dの出会いには1987年、v1.0。Macで本格的なリレーショナルデータベースの開発ができるということで、心底わくわくし、分厚いマニュアルと格闘したことを今でも鮮明に覚えています。おかげさまで、日本ではじめてのMac用電子カルテソフト「Doctor's Good will Ver 1.0」が出来上がりました。

今振り返ってみると、私が「こうした機能がほしい」と思っていると、まるでその思いとシンクロしたかのように、絶妙なタイミングで4Dに新たな機能が搭載されるのです。

今開発中のバージョンは、4Dコンポーネントを中心にv12の新機能をすべて取り入れた『いつでもどこでもカルテ』。

私の夢は、4Dによって実現できると確信しています。」

Doctor's Good Will
開発者 近藤 茂



電子カルテ画面+画像

カルテ2号用紙のハイパーテキスト化

カルテ2号用紙は、極めて優れた医療情報収集のための整理棚です。これまで、「腰椎X-P」、「腹部エコー」、「心電図」は、紙カルテでは単なる「文字列」でしたが、電子カルテでは画像や波形情報とリンクさせることができます。ハイパーテキスト化により、院内・院外を問わずにすべての情報を「カルテ2号用紙」上に集約することができます。

ハンコ

医師の机の上にあるたくさんのハンコを入力インターフェイスに取り入れたことで、患者の主訴、診察所見、検査結果、生活指導、投薬内容、病名、治療計画に至るまでの入力を素早く行うことができ、さらに「診療報酬点数表」と結びつけて、レセプト請求に必要な処理までをカルテ記載時に完了させるこ

とができるようになります。ハンコとハンコのリンク、ハンコとレセプトのリンクにより『診療時の発生源入力を100%可能にするソフト』が実現できたのです。

院内の業務フロー

Doctor's Good Willは、UNIXベースのオペレーティングシステムであるMac OS Xに日本で初めて対応し、クリニックで必要とされる院内のほぼ全ての医療機器との連携をMacのみで構築することが可能です。DICOM画像の呼び出し、CRや聴力機器などのモダリティー機器とのスムーズな連携を実現しています。また、iCalやアドレスブックなどAppleアプリケーションを通して、Mac/iPad/iPhoneのAppleデバイスとシームレスな連携を可能にしています。

レセプト発行画面

アトリエモモ

創業1985年。所在地 埼玉県。医療や健康に関わるビジネスを展開。社名はミハエル・エンデの『モモ』に由来。

Info@dgw.jp
Tel: 049-239-3093

www.dgw.jp